

感染症に気をつけよう！



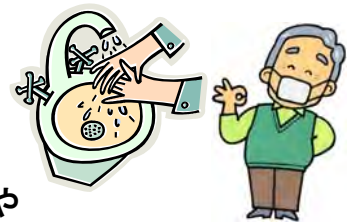
平成 25 年
【1 月号】

横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント
感染性胃腸炎	◎	→	12 月初旬の 警報発令 後も流行が続いています。 予防 には手洗い、 便や吐物の適切な処理と消毒 、食品の十分な加熱が重要です。 【12 月号】
インフルエンザ	◎	↗	全国に次いで 12 月下旬に 流行期 に入りました。下段で解説しています。
風しん	●	→	12 月以降も成人男性を中心に 流行 しています。 先天性風しん症候群 を防ぐためにも、 予防接種 を受けましょう。 【8 月号】
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	●	↗	11 月頃からの増加傾向が続いています。瀬谷区では警報レベルであり、注意が必要です。
咽頭結膜熱（プール熱）	●	↗	例年、夏に流行しますが、この冬は例年に比べて報告数が多くなっており、注意が必要です。
RSウイルス感染症	●	↗	11 月末頃には減少していましたが、再び増加傾向に転じており、注意が必要です。 【10 月号】
マイコプラズマ肺炎	●	→	全国的に流行しており、市内でもまだ報告が多いです。長引く咳などがある場合は、医療機関を受診しましょう。 【11 月号】

◎ 流行 ● やや流行 ↗ 増加 ↘ やや増加 → 横ばい

今、気をつけたい感染症 = インフルエンザ



- ◆ インフルエンザウイルスの感染が原因です。症状は 38℃以上の発熱や咳、のどの痛み、全身の倦怠感や関節痛などで、通常の風邪とは異なります。例年、1～2 月に流行のピークがあり、学校等では集団発生もみられます。特に、高齢者・小児・妊婦やぜん息などの持病のある方では、重症になりやすく注意が必要です。早めの受診を心がけましょう。
- ◆ 患者の咳で飛び散ったしぶき（飛沫）や鼻水には、ウイルスが含まれています。そのため、飛沫を含んだ空気を吸い込んだ人に、インフルエンザが感染します。また、飛沫で汚染されたものを触った手からも、目や鼻の粘膜を通じて感染します。
- ◆ 感染を避けるには、**手洗い**・うがい・マスクの着用が大事です。患者となったら、他の人にうつさないように、マスクを着けるなどして飛沫が飛び散るのを防ぐ、**咳エチケット**を守りましょう。
- ◆ 抗インフルエンザ薬を服用して解熱しても、他の人にうつす場合があります。発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日（幼児は 3 日）を経過するまでは、学校等を休んで療養しましょう。
- ◆ **予防接種**も有効で、発症する可能性を減らし、もし発症しても重症化を防ぎます。効果は接種して 2 週間程度で現れ、5 ヶ月程度持続します。接種をお考えの方は、かかりつけ医にご相談されて、できるだけ早い時期に済ませてください。



この資料は、**横浜市感染症発生動向調査委員会報告**12 月期の**市民向け版**です。ホームページの**感染症発生状況**や**啓発用パンフレット**もご覧ください。

横浜市衛生研究所
感染症・疫学情報課
【横浜市感染症情報センター】